


| | | | | |
|-------------|--|------|-----|---|
| ふりがな 氏名 | いわさき あかね | 都道府県 | 東京都 |  |
| | 岩崎 茜 | | | |
| 所属/肩書 | 日本科学未来館／科学コミュニケーター | | | |
| 私の ESD活動 | 科学コミュニケーターとして環境問題に関わる 様々なプログラムの開発・実施、イベントの企画を行う | | | |

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

科学コミュニケーターは、答えのない地球規模の課題に対して、一般の人々が多角的に考え自分の意見を構築できるよう、社会と人々をつなぐ役割を担っている。私自身は生物多様性や地球温暖化といった環境問題に関する業務に特に注力してきた。担当した主な仕事は以下の通り。

1. 生物多様性 COP11 に合わせて開かれた World Wide Views 日本大会（市民会議）におけるファシリテーター。
2. 生物多様性対話型ワークショップの開発および実施（高校生、大学生に向けて、全国規模で展開中）。
3. タイで森作りに関わる小学生を招き、日本の小学生と交流しながら環境問題を考えるワークショップの企画・実施。
4. 地球温暖化に関するデータを読み取り多角的にその解決方法を考えるワークショップのファシリテーター。

今回特に紹介したいのが、2. のワークショップである。主に高校生と大学生を対象としたこのワークショップは、生物多様性の劣化について考え、議論することを通して多様な価値観に触れ考えを深めることを目的としている。

具体的には、生物多様性の劣化を引き起こす人間の経済活動と、自然保護、未来に向けて社会がどちらに進むべきかを考えてもらう。その際、経済活動優先派と自然保護優先派の2派、計6つの立場に分かれて、ロールプレイングを通じたディスカッションを行う。自分とは違う立場や考えがあることを知り、それぞれの立場からの意見を聞きあうことで課題を多角的に考え、議論を重ねることの重要性を実感してもらう。

2013年度に10以上の高校や大学でワークショップを実施してきた。実施後のアンケートからは、生物多様性という課題を多くの参加者が自分の生活と結びつけて考えを深めた様子が伺えた。また、「答えに至るのが難しい課題について話し合うことが大事」といった対話の重要性を認める意見もあった。今後も全国規模で実施を継続する予定である。

・日本科学未来館科学コミュニケーターブログ岩崎執筆分：<http://blog.miraikanjst.go.jp/author/a-iwasaki>

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

自分の住む地域の自然、それが育んだ風土や文化を若い世代が再評価し、「身近な環境を大切にすること」の総体としてグローバルなESDが発展すると考える。

環境問題はとりわけ、地球に住む私達一人ひとりが自分事として考え、解決に向けて行動しなければならない。みずから自然と関わる態度を変え、自然に生かされているこの生活を実感し、自然を持続的に利用することを考える必要がある。また、人間の生が自然に基づく以上、自然を人間から切り離して保護しようというだけではなく、人間が手を加えながら維持していくことが欠かせない。

日本に目を転じれば、東洋の「調和的自然観」と言われるように、また里山文化にも代表されるように、自然を敬いながらも上手に利用する風土を我々は持っている。日本人がこれまで培ってきた自然との深い関係こそ、若い世代が新たな視点で再評価し、世界に発信すべき財産だと思う。